

下総台地の 160 年

<1> 江戸時代までの下総台地

江戸時代以前の下総台地は、小金牧・佐倉牧など馬を放牧する「牧」として名を馳せていた。江戸時代になると小金牧が幕府直轄の牧となり、軍馬の育成にも力が注がれるようになった。現存の地名「高根木戸」「新木戸」等は牧の囲いの木戸があった事を示すものらしい。

嘉永 6 年(1853 年)及び嘉永 7 年(1854 年)にペリーが来航。数々の課題を残した幕府は、江戸湾の防衛力強化策に着手。幕末の佐倉藩主堀田正睦がその任にあたり、江戸湾に砲台を設置して大砲を配置し警備にあたった。砲台の台場に使う材木は萱橋(現四街道市)付近から切り出された。

西洋砲術を導入する目的で、天保 12 年(1841 年)に下志津(現佐倉市)に砲術射的場を設置。文久元年(1861 年)に西洋砲術演習を木戸場(現佐倉市)で行った。現在のアコーディアガーデン志津というゴルフ場の北側あたりと思われる。(現在「木戸場」という住所は存在しないが、国土地理院の地図には表記がある)

<2> 下総の開墾

1868 年明治新政府がスタートしたが、東京府下には下級武士等の失業者が数多く発生した。新政府は窮民対策として下総の牧の開墾を進めた。

それぞれの開墾にあたっては、豪商・財閥など財力のある者が旗振りとなって、開拓会社を作ってことにあつた所が多いらしい。

そして、開墾入植の順に新しい 13 の地名が誕生した。地名は「開墾の順番」を折り込み、そこに「期待を込めた美しい響きの言葉」を組み合わせたようだが、11 番目以降の地名にはさほどの気遣いが感じられない。

開墾地の名	現在の所在地	開墾地の名	現在の地名
初富(はつとみ)	鎌ヶ谷市	八街(やちまた)	八街市
二和(ふたわ)	船橋市	九美上(くみあげ)	香取市
三咲(みさき)	船橋市	十倉(とくら)	富里市
豊四季(とよしき)	柏市	十余一(とよいち)	白井市
五香(ごこう)	松戸市	十余二(とよふた)	柏市
六実(むつみ)	松戸市	十余三(とよみ)	成田市・多古町
七栄(ななえ)	富里市		

<3> 富国強兵

明治新政府は、幕末の藩兵で間に合わせていた軍隊から「組織化された軍の編成」をめざして、海軍省・陸軍省の設置を皮切りに、兵学校・兵営の設置や砲弾・火薬製造所の新設、軍医病院の設置などに至る施策が動き出した。これまでに進められてきた西洋砲術を中心とした動きは、新政府に引き継がれた。また、下総の牧は軍馬育成の他に軍隊の演習にも



使用されるようになった。

明治6年(1873年)に徴兵令を施行し、軍の整備は加速し始めた。

フランス陸軍からジョルジュ・ルボン大尉を指導者として招き、西洋砲術のさらなる習得が進められた。

現在の京成本線大和田駅北側から新京成線高根台付近まで広がる原野を利用して、陸軍少将篠原国幹の指揮の下に演習が繰り返されていた。

この年、明治天皇が陸軍演習場の視察を行った折、兵士を前に「篠原に習え」と訓示をした。このことがきっかけとなり、この地を「習え篠原→習篠原→習志野原」と名付ける動きになり、「習志野」という地名が誕生したと言われている。

<4> 下総台地の軍都化

明治7年(1874年)下総台地の官有地を陸軍演習場に組み入れ、陸軍習志野演習場が誕生。北端は高根木戸・古和釜木戸、南端は二宮村(現在の船橋市北部)に至る広がりになった。

明治19年(1886年)四街道(現在の駅前)に陸軍砲兵射的学校を開設し、四街道が軍都としての歩み始めた。後年の資料によると、最盛期の(?)四街道駅前には軍の施設を尋ねる人々が立ち寄る様々なお店が建ち並んだとのこと。

そして、明治27年(1894年)から明治28年(1895年)まで日清戦争。講和条約により朝鮮は独立、日本は台湾と遼東半島を清国から割譲、さらに巨額の賠償金を清国から得た。

明治29年(1896年)佐倉連隊区を千葉全域の連隊区に改組して佐倉も軍都としての立ち位置を強化し、さらに高津東廠舎・高津西廠舎を建築(現在の八千代市高津)。さらに兵站輸送の手段として、鉄道大隊が編成され、後に鉄道連隊に昇格した。

明治32年(1899年)高津廠舎に騎兵旅団を発足し、明治34年(1901年)には騎兵旅団司令部が大久保(現在の習志野市大久保)に構えられた。現在の京成本線大久保駅北側には陸軍の施設が並び、この町も軍隊の町としての動きに入った。

そして、明治37年(1904年)から明治38年(1905年)まで日露戦争。日本は、戦果として南満州の鉄道の利権をロシアから獲得。

明治40年(1907年)これまで東京中野にあった鉄道連隊本隊を津田沼に移転。連隊の材料廠を千葉に構え、津田沼から大久保・三山を經由して千葉までを結ぶ16Kmほどの鉄道路線が完成した。

中国大陸では、明治44年(1911年)辛亥革命で清国王朝が滅亡し、国民党(蒋介石)・共産党(毛沢東)の覇権争いとなった。

大正元年(1912年)陸軍歩兵学校を東京戸山から千葉天台に移転。下総台地の南端にも様々な施設が構えられるようになり、軍都は軍県と変わった。

大正3年(1914年)第一次世界大戦勃発。日本はドイツに宣戦布告、我が国の中国大陸・満州への進攻が激化してきた。

大正4年(1915年)騎兵旅団司令部(大久保)に隣接する場所に俘虜収容所が設置された。青島(チンタオ)進攻に勝利した我が国は、ドイツ人約5千人を捕虜にし、その一部がここに収容された。

この年、塚田村行田(現在の船橋市行田)に海軍無線電信所が作られた。日露戦争以降、我が国の行動範囲が広範囲に及び、大規模な無線電信施設が必要になってきたことが背景にある。26年後の真珠湾攻撃にあたっては、この電信所から暗号電文「ニイタカヤマノボレ」が発信された。

大正5年(1916年)騎兵実施学校が東京目黒から習志野に移転し、騎兵学校に名称変更。

大正7年(1918年)津田沼の鉄道旅団は二分化されて千葉作草部付近にも鉄道連隊が配置された。そして、これらの施設を結ぶ軍用鉄道や演習用路線がはりめぐらされた。

この年、シベリア出兵を開始。やがて第一次世界大戦終結。

大正10年(1921年)陸軍航空学校の分校が下志津に開校し、大正13年(1924年)に再編されて下志津陸軍飛行学校となった。

大正11年(1922年)陸軍射撃学校を野戦砲兵学校と改称。この場所は、現在自衛隊下志津駐屯地(四街道)となっている。

<5> 関東大震災

大正 12 年(1923 年)9 月 1 日、関東大震災が発生。壊滅的な被害を受けて、民心・社会秩序とも混乱状態になり戒厳令が発令された。内務省が各地の警察署に出した指示の中に「混乱に乗じて朝鮮人が凶悪犯罪や暴動などを画策しているので注意せよ」との内容が含まれていたと言う。

習志野に収容所が創設され、多数の朝鮮人や中国人が収容された。また各地に自警団が編成されて、朝鮮人への襲撃が行われたが、誤って中国人や聾啞の日本人までがその犠牲になったという。大震災での死者・行方不明者は 14 万人、言われなき虐殺の犠牲となった人は 7,000 人と言われている。

下総台地では、習志野の騎兵連隊が朝鮮人を捕まえて村人に殺させるという事件が発生したり、船橋で東武線の設置工事に従事していた 50 人の朝鮮人が飯場から連行され自警団によって殺されるという事件などいくつもの痛ましい事件が起きた。

八千代市郊外を散策している時に偶然発見した石碑に刻まれていた一文を読んだ驚愕の日を今でも忘れない。

<6> 第二次世界大戦

昭和 2 年(1927 年)から昭和 7 年(1932 年)にかけて、鉄道連隊の演習線「松戸線」の敷設が行われた。この路線は演習を目的としたもので、カーブが多く作られていた。戦後この線は新京成線として活用された。これ以外の軍用鉄道は、終戦後に撤去されて「民間線としての活用」はされていない。

昭和 3 年(1928 年)張作霖爆殺事件を始めとして、関東軍の独断暴走が数々の問題を起こす。

遼東半島に駐留していた日本軍(関東軍)は、満州の利権を獲得する目的で満州国を建国して傀儡化することを企てた。そして、昭和 6 年(1931 年)奉天郊外の柳条湖で関東軍が南満州鉄道を爆破(柳条湖事件)。

昭和 7 年(1932 年)日本軍の強攻策により満州国が建国された。

騎兵第二旅団の満州移転後の跡地に、習志野学校を創設(現在の習志野市泉町)。

この学校の主たる任務は化学兵器に関する教育。毒ガスなどの化学兵器に対する対応強化が目的だったと言われているが、巷間囁かれている情報には諸説あるらしい。現在、習志野学校の跡地には東邦大学付属中学校や集合住宅などが建っている。

この年 5・15 事件が発生。海軍の若手将校らによる叛乱が発生し、犬養毅首相が命を落とした。

昭和 8 年(1933 年)関東軍の暴走がもたらす様々な事件は国際連盟でも受け入れられず、日本は国際連盟を脱退することになった。

昭和 11 年(1936 年)2 月 26 日、陸軍の派閥の一つである皇道派の影響を受けた青年将校らが中心となって、下士官約 1500 名を伴ってクーデターを起こしたが未遂に終わった。軍隊の中でも政治の中でも様々な軋みが露呈し始めてきた。

昭和 12 年(1937 年)盧溝橋事件、昭和 15 年(1940 年)日独伊三国同盟締結と深みにはま

っていくのと並走するように、昭和 14 年(1939 年)演習場用地買収(国有化)が完了。

昭和 15 年(1940 年)民間の航空機操縦士や整備員を養成する目的で逋信省中央航空機乗員養成所を松戸に設立。しかし、程なくして養成所卒業者は陸・海軍下士官として任官するように法改正され、戦場に赴いた。

昭和 16 年(1941 年)真珠湾攻撃により日米間の戦いに発展。

昭和 17 年(1942 年)山本五十六の命により、国産軍用機の製造を進めることになった。千葉の蘇我村・今井



村沖合を埋め立てて飛行機工場（日立航空機千葉工場）を創設し、大網には山をくり抜いた地下工場も設立。昭和19年（1944年）には製造を開始したが、後述の大空襲で米軍機の爆撃を受け多数の犠牲者を出した。昭和18年（1943年）陸軍の演習場用地をさらに買い増して拡張。

昭和19年（1944年）本土防衛のため飛行場を作ることになり、武蔵野カントリークラブ藤ヶ谷コースを陸軍が接收。このゴルフ場は昭和7年（1932年）にできた、当時東洋一の規模と言われていた。

藤ヶ谷陸軍飛行場は翌年4月に完成し、松戸にあった飛行第53戦隊を移管したが、時既に遅し。

昭和20年（1945年）東京ほか各地（千葉を含む）に大空襲、そして広島・長崎に原子爆弾投下。

<7> そして終戦

昭和20年（1945年）8月15日終戦。

松戸の小金原から佐倉・四街道はたまた市川・船橋・津田沼・千葉に至るまで、広大な下総台地は軍事政策に翻弄された時代を歩んできた。

さてそれぞれの施設はどうなったか。下総台地の約160年の歴史を辿ってみた締めくくりに、軍県千葉の様々な軍事施設が現在何に姿を変えているのかを調べて付録としてまとめてみた。

昭和初期の国土地理院地形図と現在の各種地図とを見比べながら個人的にまとめたものなので、正確さには欠けるとかもしれません。

以上

◇関連文書

「ここに鉄道があったのだ」 <http://www.l.u-netsurf.ne.jp/~TKOB/guntetsu.pdf>

「下総の歴史と今を覗いて見る」 <http://www.l.u-netsurf.ne.jp/~TKOB/shimousa.pdf>

「蘇我の街角から歴史を紐解くと」 <http://www.l.u-netsurf.ne.jp/~TKOB/soga.pdf>

<付録>

下総の主な軍事施設とその後の変遷

軍事施設名	設置された場所(昭和初期)	現在の状況(令和元年)	備考
野戦砲兵学校	四街道 駅前	下志津病院 イトーヨーカドー ほか	
野戦重砲四連隊	四街道 駅前	愛国大学 千葉敬愛高校 ほか	
下志津廠舎	四街道 駅前	大日(一般住宅地)	
下志津飛行学校	四街道	陸上自衛隊下志津駐屯地	
騎兵学校	習志野 薬園台	航空自衛隊習志野分屯地	
騎兵旅団司令部	習志野 大久保	習志野市社会福祉協議会 大久保支部付近か?	
練兵場	習志野 大久保	大久保県営住宅	
射撃場	習志野 大久保	陸上自衛隊習志野駐屯地	
騎兵 14・15・16 連隊	習志野 大久保	東邦大学・日本大学 習志野病院	
高津西・東廠舎	大和田 高津	東習志野 2・3 丁目 (一般住宅地)	
鉄道連隊材料廠	津田沼 駅前	イオンモール イトーヨーカドー ほか	
鉄道 2 連隊	津田沼 駅前	千葉工業大学	
糧秣廠倉庫	船橋 三山	習志野高校 イオンタウンあたりか?	
船橋海軍無線電信所	船橋 行田	行田団地・行田公園	
陸軍兵器支廠	千葉 作草部付近	千葉経済大学・千葉東高校	
鉄道連隊材料廠	千葉 作草部付近	老人ホーム ほか	
陸軍歩兵学校	千葉 天台付近	JR 東日本系商業施設 JR 関連会社社宅 ほか	
気球隊	千葉 作草部付近	千葉少年鑑別所 天台保育所 あたりか?	
鉄道一連隊	千葉 椿森	千葉医療センター 椿森中学校・一般住宅地	
鉄道一連隊倉庫	千葉 椿森	千葉競輪場	
射撃場	千葉 穴川・萩台付近	スポーツセンター 園生市民の森 あたりか?	
日立航空機千葉工場	千葉 蘇我	JFEスチール東日本製鉄所	旧川崎製鉄
野砲 14 連隊	市川 国府台	千葉商大 国府台野球場	
野砲 15 連隊	市川 国府台	東京医科歯科大学	
野砲 16 連隊	市川 国府台	国府台病院	
藤ヶ谷陸軍飛行場	柏 藤ヶ谷	海上自衛隊下総航空基地	
航空機高等乗員養成所	松戸	自衛隊松戸駐屯地	

*この情報は、著者が新旧の地図を見比べて確認したもので、事実とは異なるかもしれません。